

# 学生生活実態 調査報告書

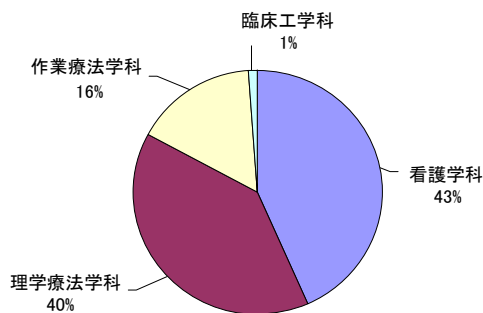
平成 22 年 6 月～7 月に行われました、学生生活実態調査の分析結果をご報告致します。

この調査は、学生委員会が学生の生活実態について正しく把握し、今後の教育・指導の向上のために役立てるために行われたものです。皆様のご協力もあって、839 名 (90.2%) からアンケートを回収することができました。皆様方のご協力に感謝致します。

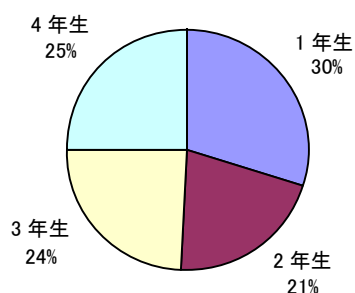
性別については、男性 44%、女性 56%で若干女性の方が多い傾向にあります。また、所属は、看護学科 43%、理学療法学科 40%、作業療法学科 16%、22 年 4 月開講の臨床工学科は 1%程度です。学年別では、1 年生 30%と一番多く、次いで 3・4 年生が 24%、25%でした (属性 1・2)。

回答率については、学科別では、看護学科 87.4%、理学療法学科 91.8%、作業療法学科 81.2%、臨床工学科 100%で、学年別では、1 年生 90.4%、2 年生 90.1%、3 年生 89.4%、4 年生 84.8%でした (属性 3・4)。

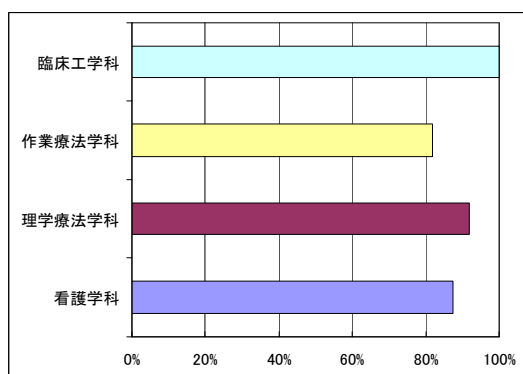
入学形態については、一般選抜と公募推薦がそれぞれ 42%と 36%と圧倒的に多く、指定校推薦が 13%と次いで多く、一昨年から導入された A0 入試は 5%でした。現在、A0 入試は理学療法学科、作業療法学科で行われています。



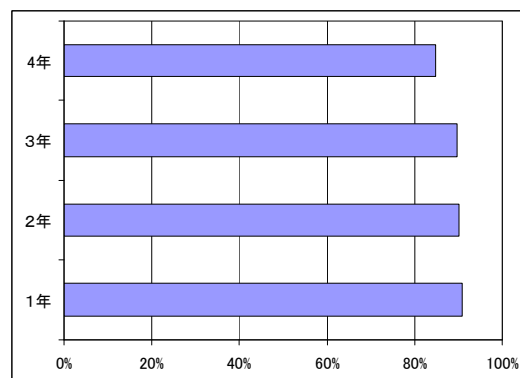
属性-1 所属学科



属性-2 学年



属性-3 学科別回答率



属性-4 学年別回答率

## I 学生の通学と生活の場

通学については、通学時間と通学方法、通学にかかる費用について調査しました。30分以内が29%、30～60分未満が23%と1時間以内の通学時間は全体の半数、また90分以上も通学に時間がかかる学生も19%おり、長い通学時間は心身ともに大きなストレス要因になる可能性があります（図1）。

通学方法については、電車とスクールバスで通学する学生が43%と最も多く、自転車通学者は23%でした（図2）。通学にかかる費用については、2,000円以内が33%で、10,000円以内が全体の60%以上でしたが、15,000円以上の通学費の学生が16%もいます（図3）。

家計の主たる支持者は、父親が79%、母親が17%で、ほとんど親がその支持者です。自宅からの通学者は、74%で、自宅外学生（単身でアパート生活など）は26%で、自宅からの通学者が多くみられます。

自宅外学生が月々支払っている家賃については、3～5万円未満48%、5～7万円未満37%で、多くは3～7万円程度の家賃を支払っています（図4）。

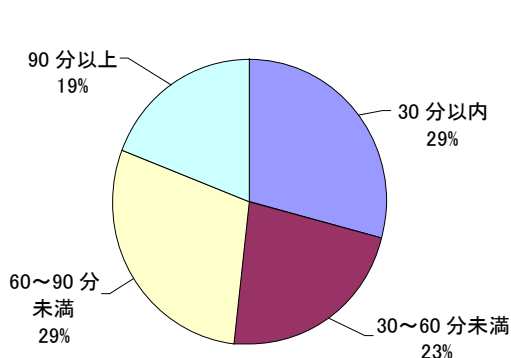


図-1 通学時間

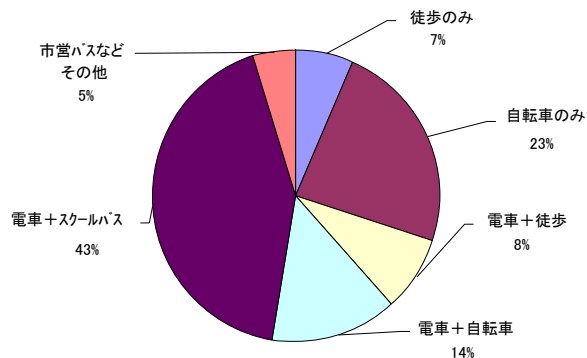


図-2 通学の方法

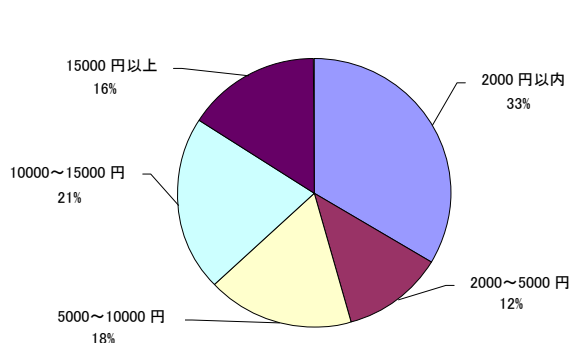


図-3 通学の費用

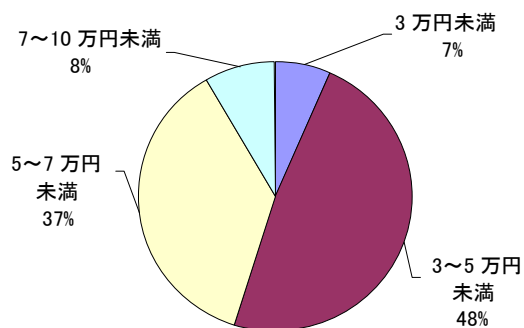


図-4 自宅外学生の家賃

## II 生活

食事については、半数以上の学生57%は朝食を摂る習慣があり、朝食を摂らないという学生は11%と少ないと思われます。昼食についても、90%近い学生が昼食を摂り、食べたり食べなかったりという学生は、11%と少なかったです。夕食については、食べたり食べなかったりという学生が17%と比較的多く見られました（図5）。

自宅外学生に多く見られるパターンかも知れませんが、3食の食事の内いずれかをコンビニなどのお弁当や軽食で済ませる頻度では、「よくある」という回答が29%、「時々ある」という回答が44%で、食事は摂ってはいるが、必ずしも十分に栄養などに配慮されたものではない可能性があります。飲酒の習慣を持つ学生が254名31%で、飲酒の習慣を持つ学生は多い傾向にあります（20～29歳の飲酒の習慣の全国平均は11%～13%）。しかし、喫煙の習慣を持つ学生は46名6%と少なく、本学が掲げている禁煙が、かなり効果的に働いていると言えます（図6）。（平成17年20～29歳男性の喫煙習慣45.1%、女性17.9%に比較しても低いと言えます。）

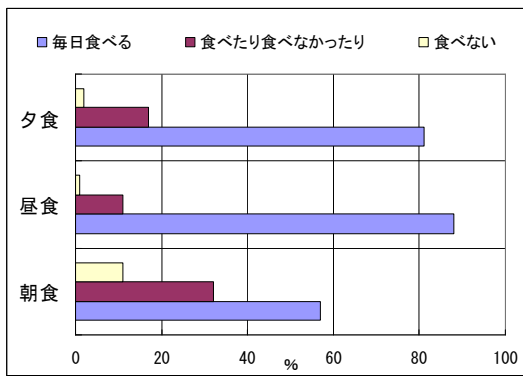


図-5 食生活

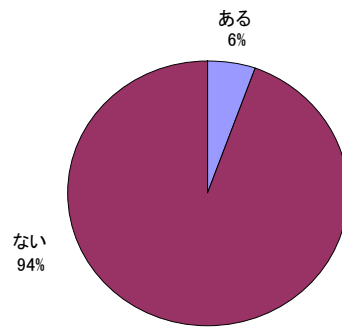


図-6 喫煙の習慣

睡眠時間について、実習などの時にはかなり睡眠時間が短くなることは学生からよく聞くことですが、この調査期間は実習期間とは重ならなかったため、ほぼ平均的な睡眠時間を調べることができたと思われま

す。睡眠時間 5 時間未満は 26%、5～6 時間未満 49%、6～7 時間未満 19%、7 時間以上が 6%でした。成人の平均睡眠時間が 7 時間くらいと言われており、7 時間以上の睡眠時間を確保している学生は 6% ならずで、多くの学生は睡眠不足であると言えます (図 7)。このようなこともあってか、授業中の居眠りは、決して少ないものではなく、十分に睡眠時間を確保し、授業に出席することが、効率的な勉強の方法でもあります。

就寝時刻については、12～1 時までで就寝する学生が 38%、1～2 時までで就寝する学生が 29% でした。2 時以降に就寝する学生も 15% います。起床時刻については、6 時～6 時 30 分までに起床する学生が 24%、6 時 30 分～7 時までに起床する学生が 23% でした。朝適切な時間に起きることができないと、睡眠・覚醒リズムがずれて、生活のリズムが障害され、修学が困難になるので、できるだけ朝、適切な時刻に起床できるよう、就寝時刻が遅くならないようにすることが必要です (図 8、図 9)。

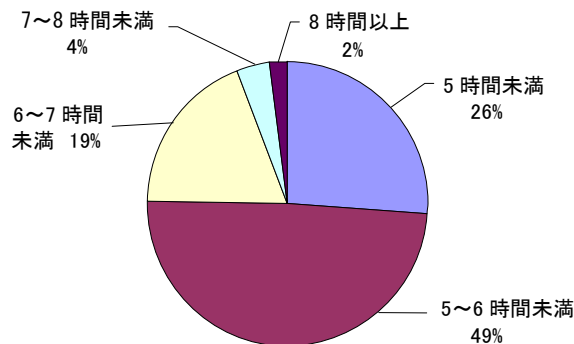


図-7 睡眠時間

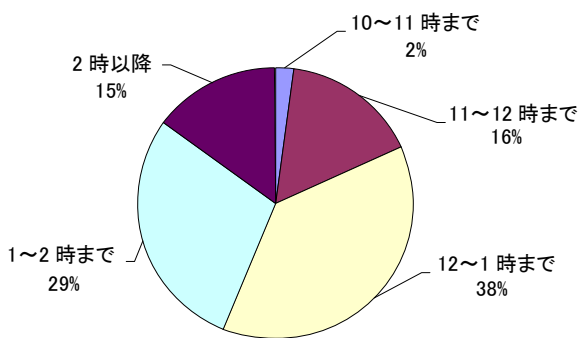


図-8 就寝時刻

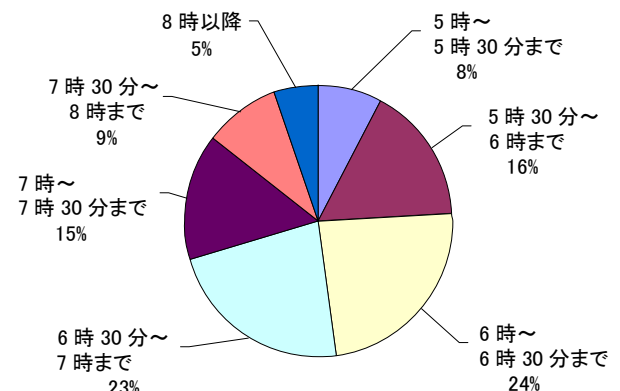


図-9 起床時刻

余暇・娯楽的な活動については、テレビ・パソコン・チャット・ゲームなどに使う時間は、60～90分未満が27%と最も多く、30～60分未満が24%です。しかし、90分以上もテレビやゲームに使っている学生が32%もいます。友人との交流については、120分以上が50%と圧倒的に多く、家族との交流は、30分以内が32%で、120分以上は21%でした。外出や買い物時間については、30分以内が最も多く32%で、30～60分未満が次いで多く24%、120分以上が23%です。家族との交流の時間は、友人との交流の時間に比べて短いですが、大学の講義が終わり、アルバイトや友人と遊んだ後自宅に戻っても、家族とゆっくり話しをする時間がないのが実情なのかも知れません。

休日の過ごし方については、複数回答可の形で回答してもらいました。休日を休息や睡眠 28%、遊び 27%に充てていることが多く、休日はアルバイトに精を出す学生 26%も多く見られます。講義の復習や予習など勉強に充てている学生は13%で、休息や遊びを終えてから勉強に励む学生も多くいるようです(図10)。

最近の学生で携帯電話を持っていない学生は皆無で、ちょっと時間があるとすぐに携帯を取り出してメールや、ゲームをしている学生を多く見かけます。また所構わず、携帯で大きな声で話している場面もよくみかけます。携帯電話や携帯メールに費やす時間には30～60分未満が30%と1番多く、30分未満が25%でした。また120分以上も携帯電話や携帯メールに費やしている学生が20%もいます(図11)。

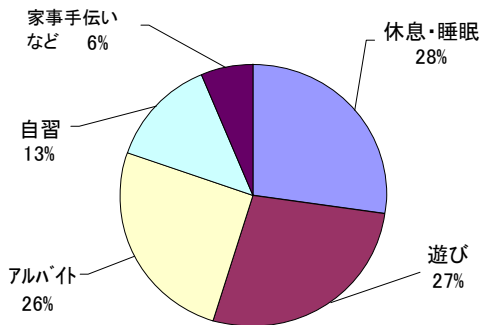


図-10 休日の過ごし方

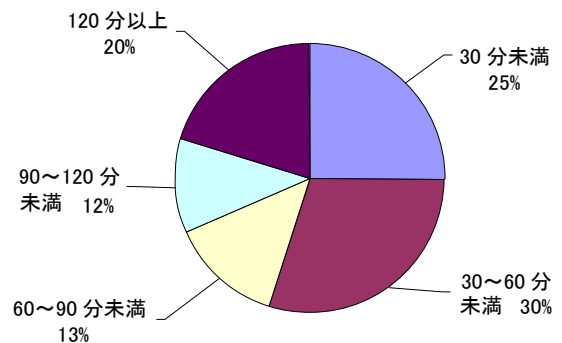


図-11 携帯の使用時間

こづかいを含む生活費については、2万円未満が39%、2～4万円未満が29%、4～6万円未満が18%で、学生のこづかいの金額は決して高いものではなく、比較的質素な生活であることが分かります(図12)。

学費は決して安い方ではなく、昨今の景気後退に伴う親の収入の減少やリストラ等による解雇や大幅な収入減で、学費の分納、延納の申請や学費減免の申請が増加してきています。家計にとって学費が負担になっているかについては、「大きな負担になっている」と回答した学生が70%、「やや負担になっている」と回答した学生が23%で、学費は家計にとって負担になっているようです(図13)。奨学金の取得については、52%の学生が何らかの形の奨学金を取得しています。

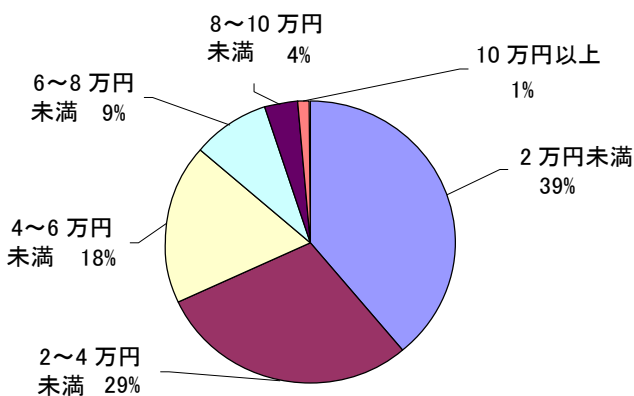


図-12 生活費(小遣いを含む)

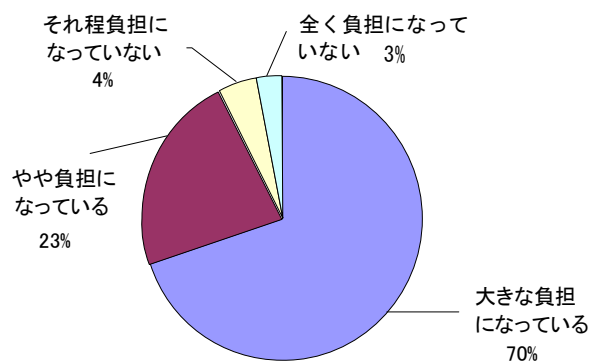


図-13 学費の経済的負担

### Ⅲ 勉学について

週平均の登校日は月曜日から金曜日までの5日をきちんと通学している学生が83%で、3日、4日の登校がそれぞれ7%でした。この調査の時期は4年生の一部が実習の合間になっていたこともあって、登校日が少なくても済む学生が含まれていた可能性があります(図14)。また、週平均の出席率についても月曜日から金曜日までの全ての受講科目に100%出席した学生が77%、80%程度の出席が20%、登校についても講義への出席についても、かなり良好であることが分かります(図15)。

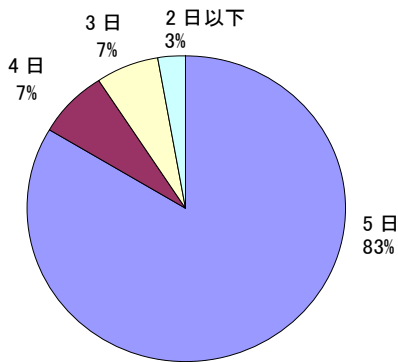


図-14 平均登校日数

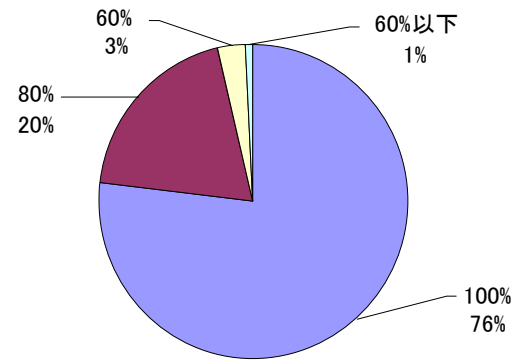


図-15 平均出席率

マンガや雑誌を除く書籍の1日の平均時間は、30分以内が76%と圧倒的に多く、30~60分未満が18%で、90%以上の学生の読書時間は60分以内です(図16)。これは最近の活字離れを反映したもので、1週間当たりの読書時間は、平均2時間程度と言われ、25年前に比べると2時間以上も短くなっています。講読書籍については、月平均0~2冊が86%、3~5冊が10%と購読量は決して多いとは言えません(図17)。

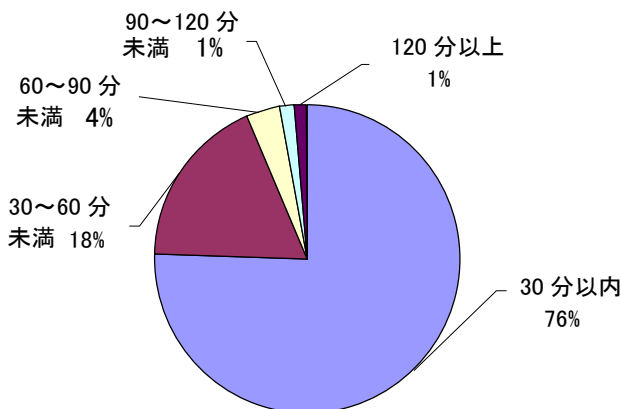


図-16 読書時間

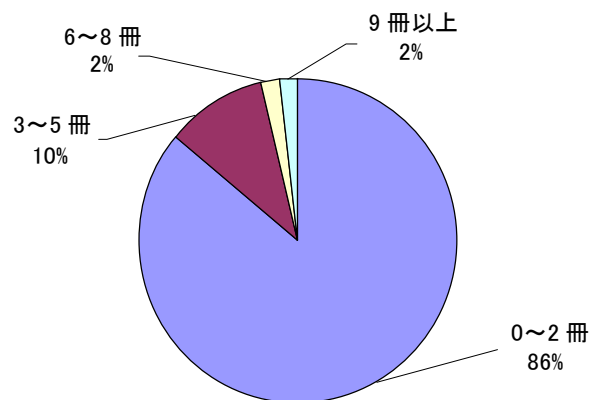


図-17 月間平均講読書籍数

1日の平均自習時間は、30分以内が31%、30~60分以内が33%で、1日の平均自習時間は60分以内が60%以上で、自習時間は決して多いとは言えないが、90分以上も自習する学生が15%以上もいます(図18)。

新聞を読まない学生が多いと言われているが、やはり毎日読む人は11%に過ぎず、ほとんど読まない学生は64%もいます(図19)。国家試験などにも必要な情報が新聞には掲載され、また就職の面接時にも最新の情勢について聞かれることが多く、少なくとも4年生になった段階では、新聞を読み、記事内容を理解できるようになって欲しいものです。

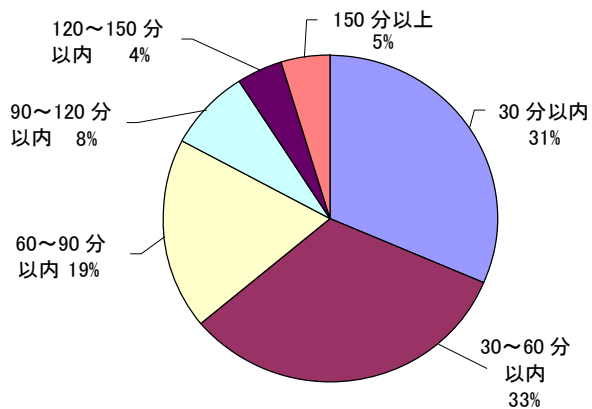


図-18 自習時間

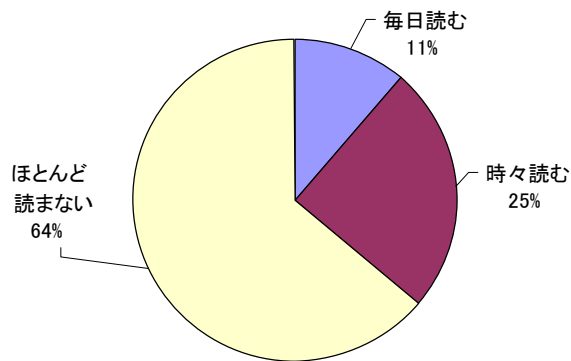


図-19 新聞を読む習慣

パソコンに関して、88%の学生が所有しています。パソコンの利用目的の多くは、授業・レポート・課題の作成で46%、インターネットの38%でした（図20、図21）

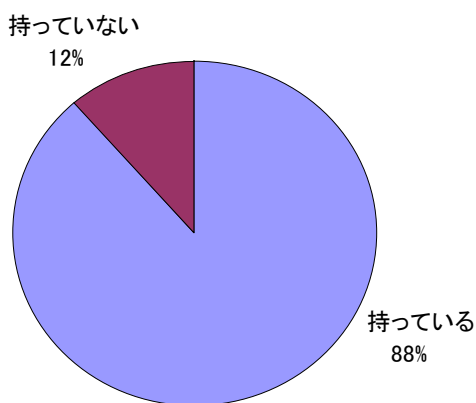


図-20 パソコンの所有

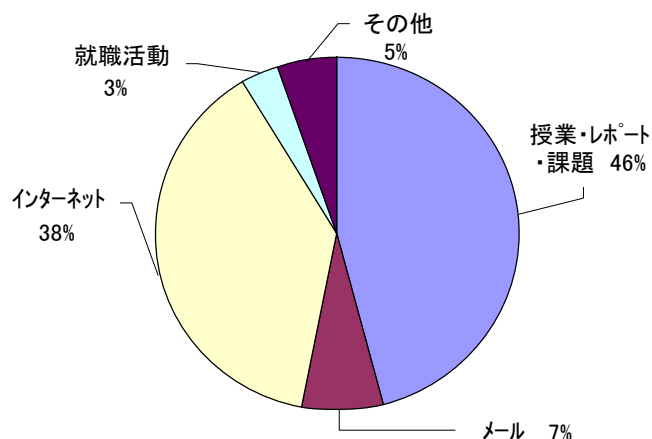


図-21 パソコンの利用目的

#### IV アルバイト

アルバイトをしている学生は66%でした。また、アルバイトの時間は、週平均5時間未満が22%、5~10時間が34%、10~20時間が38%で、20時間以上は6%です。アルバイトの目的は、「自分の小遣いのため」というのが一番多く43%、次いで貯金22%、生活のため20%、学費のため8%、奨学金の返済のため4%です。アルバイトの内容は、飲食業46%、販売業22%、その他が21%で、スチューデントジョブは6%でした（図22~25）。

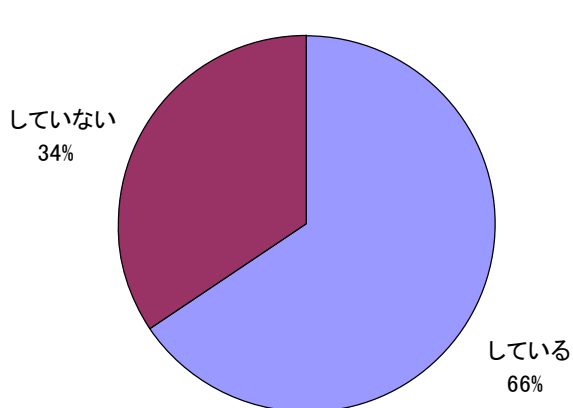


図-22 アルバイト

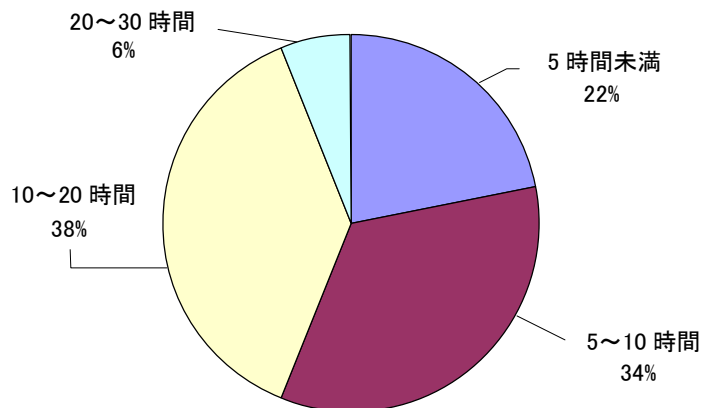


図-23 アルバイトの時間

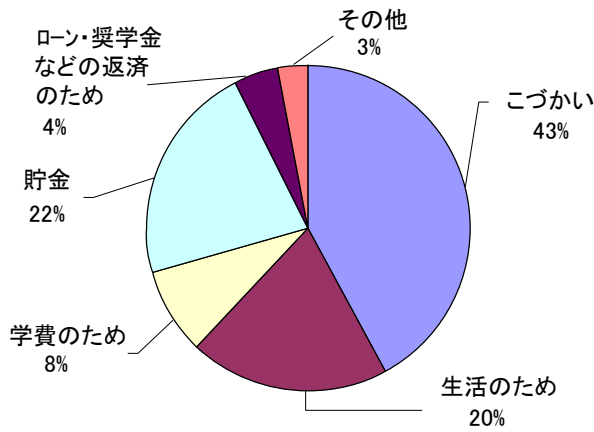


図-24 アルバイトの目的

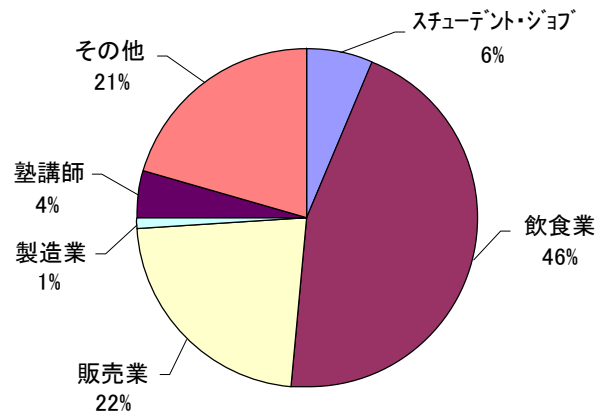


図-25 アルバイトの内容

## V ボランティア活動について

ボランティア活動を「していない」という学生が81%で、「継続的、定期的に行っている」学生は4%、「時々している・不定期に行っている」という学生が15%で、学生のボランティア活動は必ずしも積極的ではないといえます(図26)。医療関係学部は講義数が非医療系に比べて1、2年生の頃から多く、時間の少なさが関係している可能性があります。また、その内容は、医療福祉関連のボランティア活動が50%と最も多く、教育関連が21%、その他が29%でした(図27)。

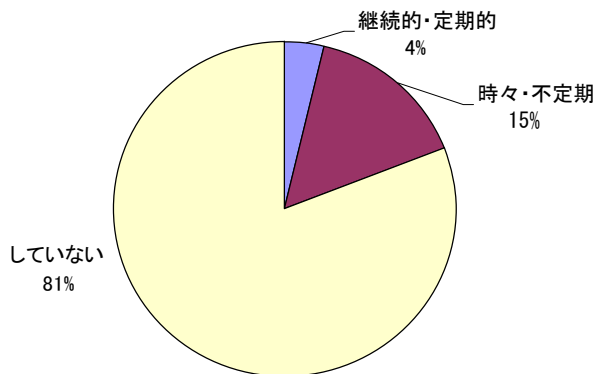


図-26 ボランティア活動

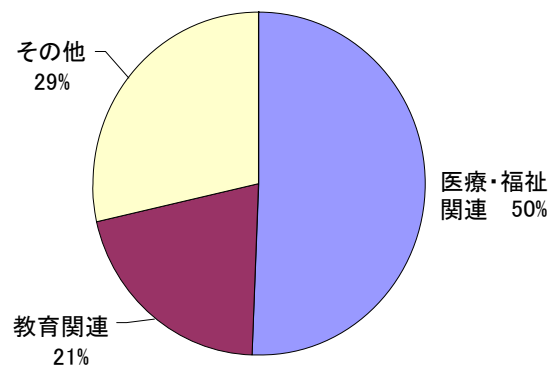


図-27 ボランティアの内容

## VI 健康管理

身体的な訴えでは、頭痛や腹痛が26%、目の疲れが24%、めまいやふらつきが18%、胃痛・胃部不快感が10%、吐き気や下痢が11%、冷え性が11%でした(図28)。精神的な自覚症状では、疲れやすさが24%、昼間の過剰な眠気が23%、不眠・睡眠過多が17%、意欲低下が16%、気分の落ち込みが17%でした(図29)。

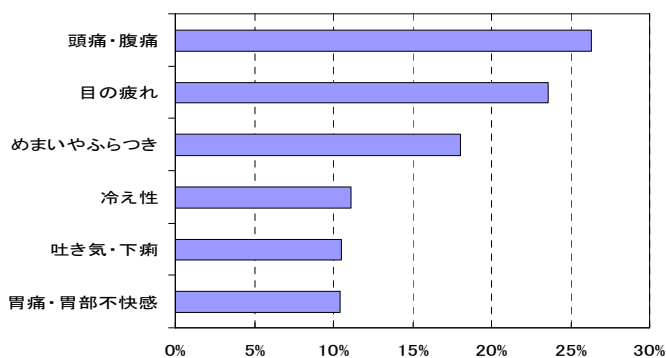


図-28 身体的な自覚症状

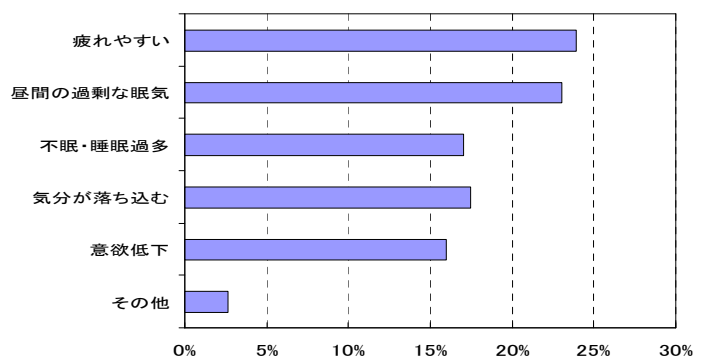


図-29 精神的な自覚症状

現在の不安についての質問では、勉学・成績・単位のことが最も多く 26%、実習のことが 21%、進学・就職のことが 13%で、自己の性格が 9%、経済（お金の心配）が 8%、体調・病気についての心配が 7%、交友関係が 6%、恋愛・愛情問題が 6%、教員との関係が 4%でした（図 30）。

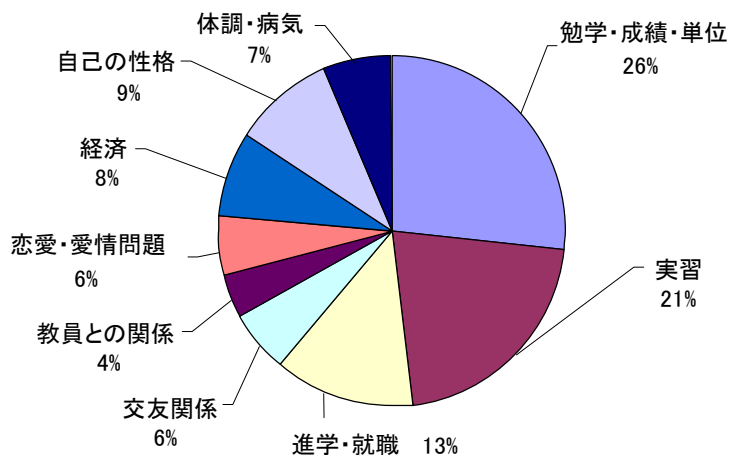


図-30 現在の不安

## 男女の比較

男子と女子を比較して、10%以上の差が認められた項目のみを示します。通学の方法については、男子学生は自転車通学が 31.4%と多く、女子学生は電車とスクールバスでの通学が 50.2%と多く、違いが見られます（図 31）。また、自宅外学生の家賃については、男子学生は3~5万円未満の家賃が 67.4%と多く、女子学生では5~7万円未満の家賃が 48.6%と多く、女子学生の方が男子学生に比べて家賃が高いようです。（図 32）。

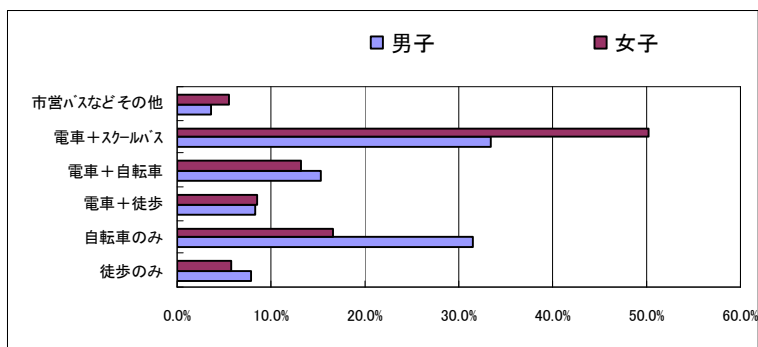


図-31 通学方法の比較

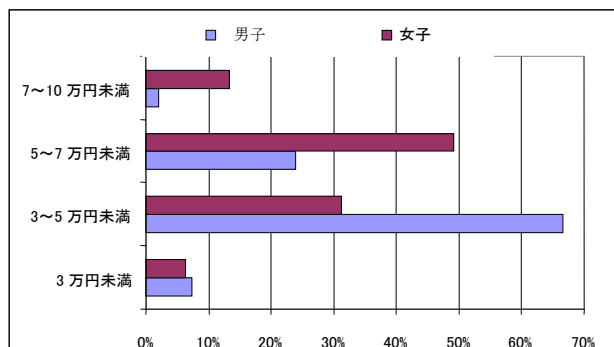


図-32 自宅外学生の家賃の比較

睡眠時間、就寝時刻に関しては、男女で差はほとんど見られませんが、起床時刻については、女子学生は、5時~6時30分に起床する学生が男子学生に比べて多く、逆に男子学生では、6時30分以降に起床する学生が女子学生に比べて多く、男子学生の方が朝寝坊の傾向にあります（図 33）。

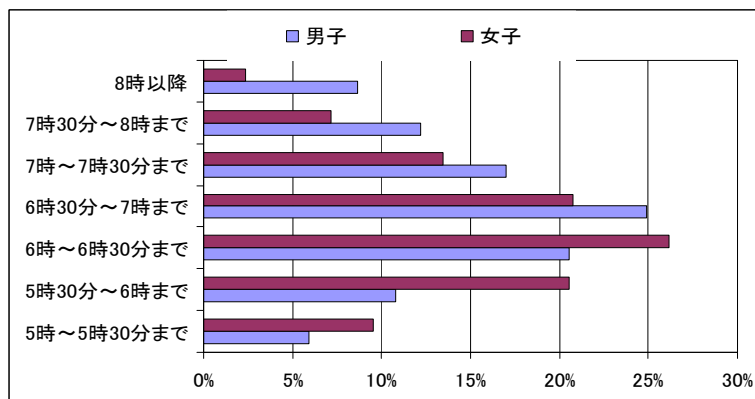


図-33 起床時刻の比較

## 学科別比較

学科を比較して10%以上の差が見られた項目を示します。今回、臨床工学科は1学年しかいなく、また学生数も10名と少ないので、この分析からは除外しました。

通学方法について、自転車だけの通学が看護学科の学生に比べ、理学療法学科、作業療法学科の学生が多いという結果です(図34)。自宅外学生は、作業療法学科が他学科に比べてやや多い傾向にあります(図35)。

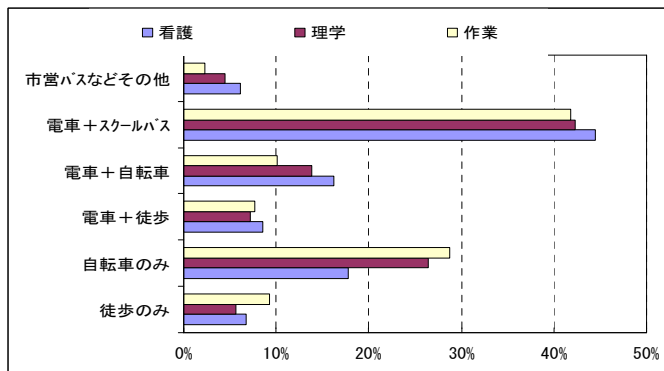


図-34 通学方法の学科別比較

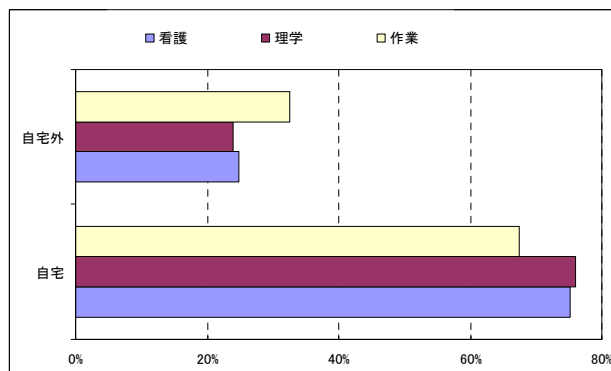


図-34 生活の場の学科別比較

毎月の小遣いを含む生活費について、「2万円未満」という回答が看護学科36.2%、理学療法学科37.7%であったのに比べて、作業療法学科では46.5%と他の学科より多く見られました(図36)。奨学金の取得については、各学科で差はありません。週平均の登校日数を学科で比較すると、毎日登校する学生は、理学療法学科は92.5%、作業療法学科は85.4%であるのに比べて、看護学科では74.6%と他の学科に比べて低い値でした(図37)。出席率については、3学科で顕著な差はありませんでした。また、読書時間、講読書籍数でも3学科で差はありませんでした。

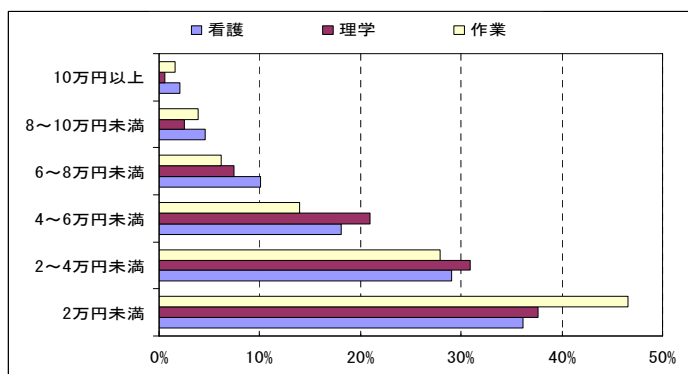


図-36 生活費の学科別比較

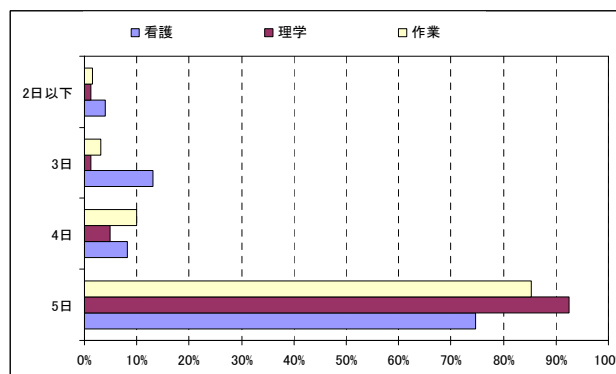


図-37 週平均登校日の学科別比較

アルバイトについては、「アルバイトをしている」と回答した学生は、看護学科では72.6%、理学療法学科では64.2%、作業療法学科では50.8%で、看護学科が多く、作業療法学科は少ない結果でした(図38)。ボランティアについては、作業療法学科の学生が「時々・不定期に行っている」と答えた学生が42%で他の学科に比べて際だって多く見られました(図39)。

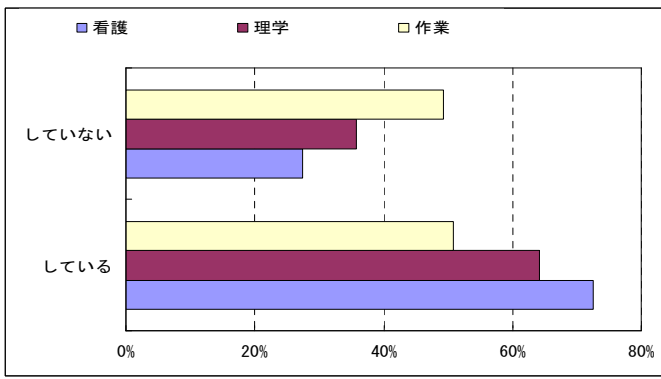


図-38 アルバイトの学科別比較

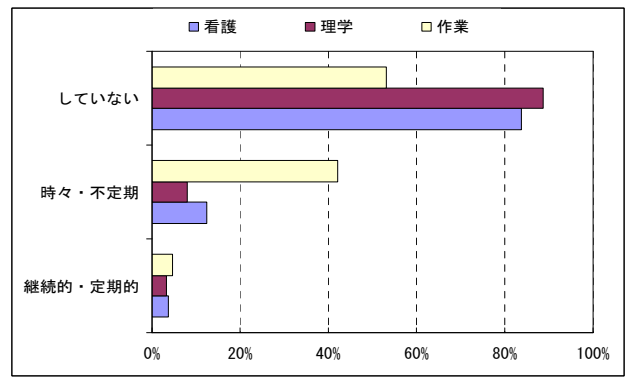


図-39 ボランティアの学科別比較

### 学年別比較

学年別に比較して 10%以上の差が見られた項目を示します。自宅外学生と自宅から通学の学生を比較すると、学年が上がるに連れて自宅外学生の割合が増えます。これは 3、4 年生になって実習が多くなり、国家試験の勉強などに多くの時間が割かれることに関連があるかも知れません (図 40)。また食事についてみると、4 年生は朝食を毎日摂る学生が少なくなり、「食べたり食べなかったりする」と回答する学生が増えます (図 41)。実習や勉強で忙しくなり、朝食を摂ることさえできない学生が増えることは良い傾向とはいえません。

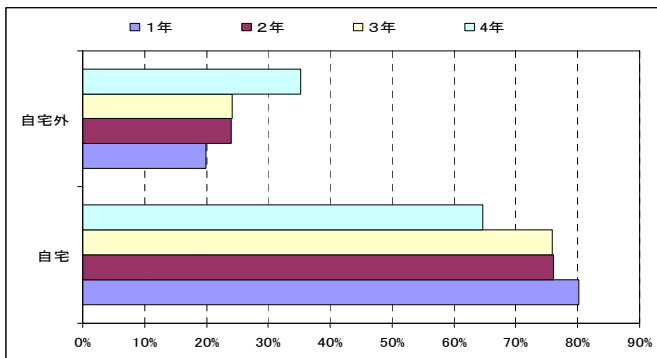


図-40 自宅外学生の割合

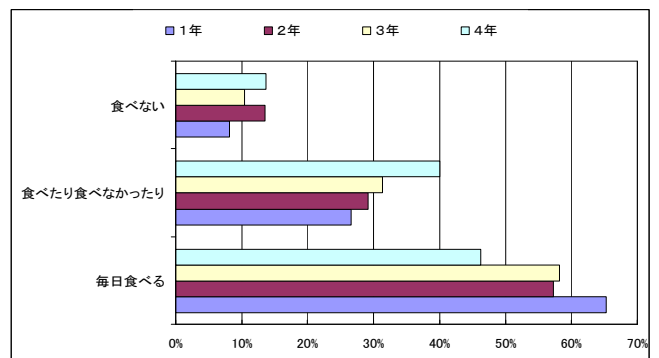


図-41 朝食の摂取率の比較

お酒を飲む習慣については、学年が上がるに連れて増加します (図 42)。就寝時刻については、4 年生では夜遅く (2 時以降) まで起きている学生は、1 年生に比べると倍近くに増加し、20%以上にもなります (図 43)。

パソコンの所有については、これも学年が上がるに連れて増え、4 年生では 98%の学生が所持しています (図 44)。

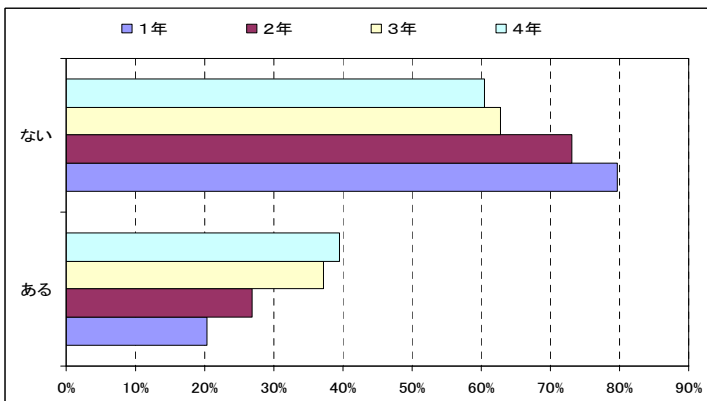


図-42 お酒を飲む習慣

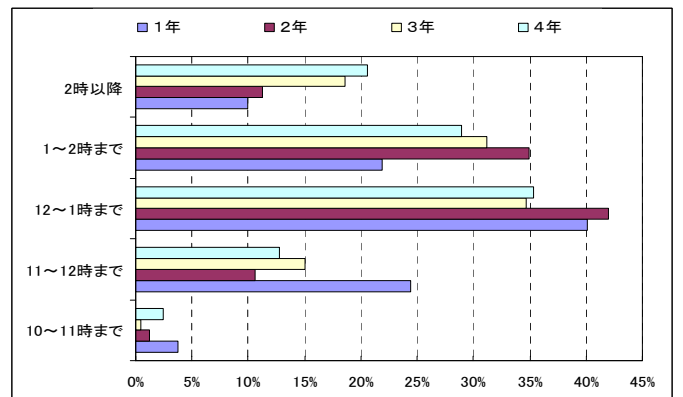


図-43 就寝時刻の比較

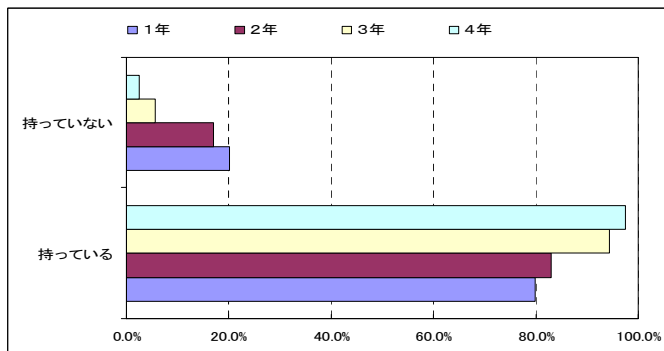


図-44 パソコンの所有

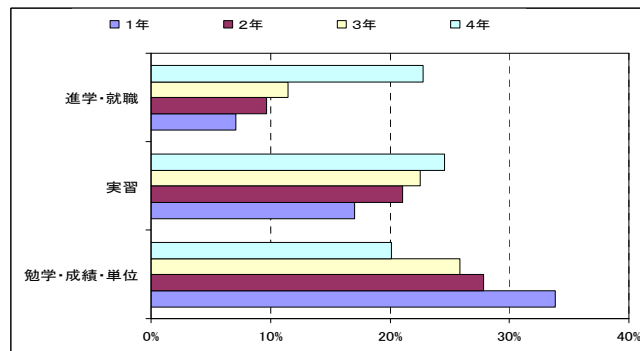


図-45 現在の不安

学生が抱える不安については、勉学・成績・単位についての不安は、学年が上がるに連れて減少し、学年が上がるに連れて、実習や進学・就職についての悩みが増してきます。特に4年生では、就職についての問題が現実問題として大きくクローズアップされることが分かります(図45)。

### 自宅学生と自宅外学生の比較

自宅外学生の約85%は徒歩・自転車で30分以内に居を構えています。食生活では、朝食をきちんと摂る学生が自宅外学生は自宅学生に比べて少なく(自宅学生では64.1%に比べて36.5%)、また朝食を摂らない学生が、自宅学生に比べて多く見られます(自宅学生では7.1%に比べて23.1%)(図46)。また夕食についても自宅外学生は、毎日食べるという学生が自宅学生に比べて少なく、食べたり食べなかったりするという学生が多く見られます(図47)。

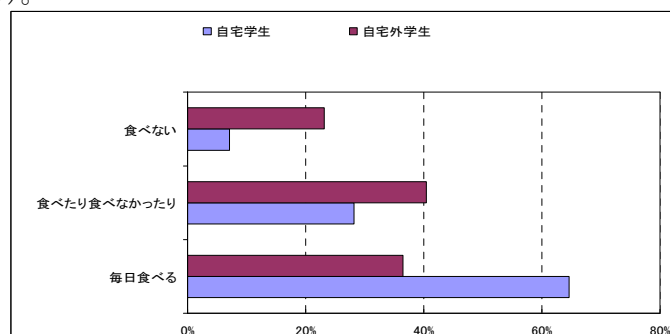


図-46 朝食の摂取の比較

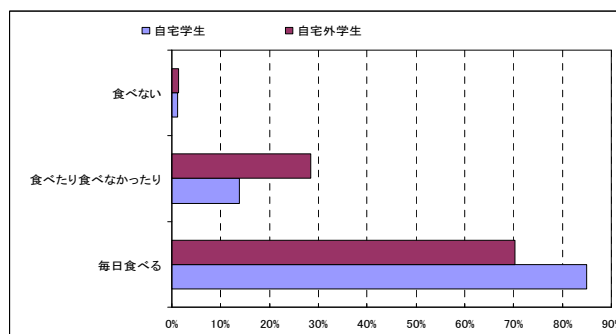


図-47 夕食の摂取の比較

睡眠時間や就寝時刻については自宅学生と自宅外学生との間で差は見られませんが、自宅外学生は通学時間が短いこともあって、起床時刻は自宅学生に比べて遅い傾向にあります。

小遣いを含む生活費については、4~6万の生活費の学生が、自宅外学生の方に多く見られます(図48)。

新聞を読む習慣については、自宅外学生で毎日新聞を読んでいる学生は4.3%に過ぎず、88%の学生は新聞を読んでいません。自宅学生でも毎日新聞を読む学生は13.7%で、また新聞を読まない学生が55.5%もいます(図49)。

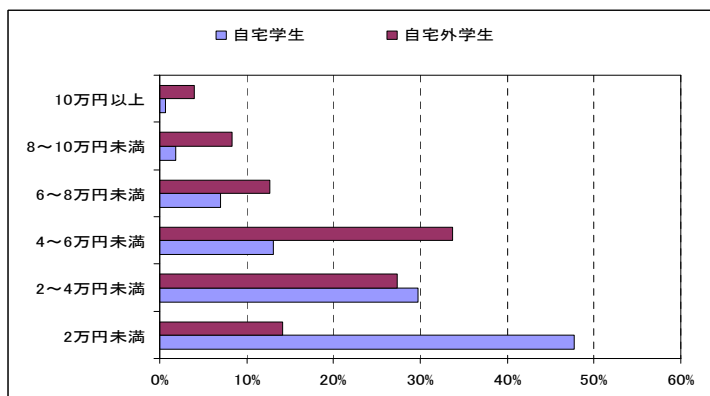


図-48 生活費の比較

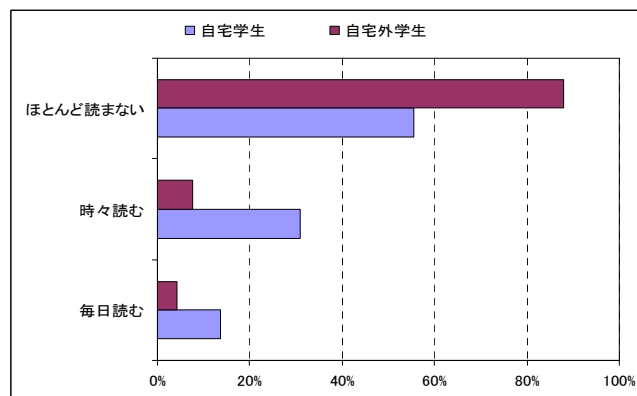


図-49 新聞を読む習慣の比較

アルバイトについて比較すると、自宅外学生は、自宅学生に比べてアルバイトをしている学生の比率は低いことが分かります(図 50)。しかし、アルバイトの目的については、生活費のためと答えた学生が自宅学生では 15.2%であるのに比べて、自宅外学生は 39.4%と多く、アルバイトで生活費を捻出しなければならない学生が自宅外学生には多く見られることが分かります(図 51)。

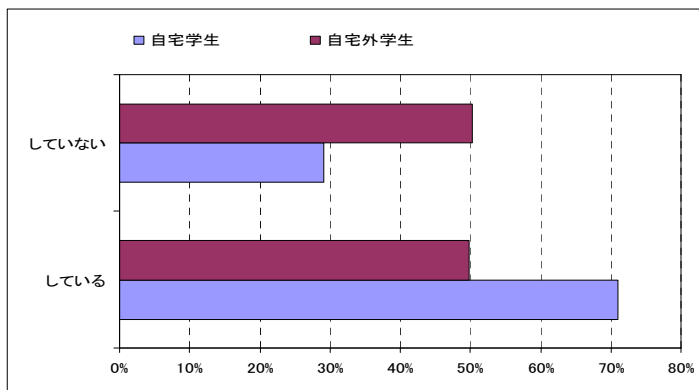


図-50 アルバイトの比較

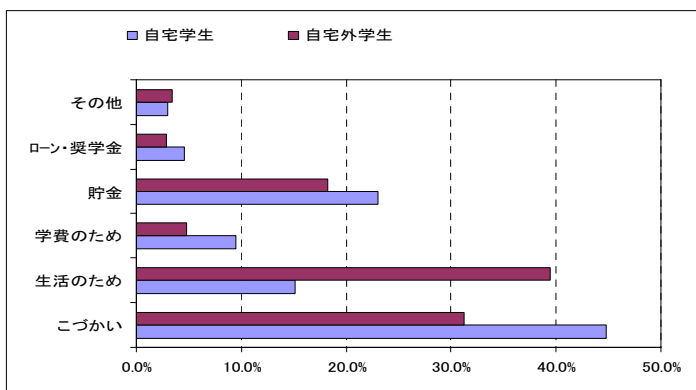


図-51 アルバイト目的の比較

体調管理については自宅学生と、自宅外学生との間に差はなく、また不安材料についても両者の間で差は見られませんでした。

## 学生生活実態調査の分析を終えて

90%以上もの学生の協力で、藍野大学の学生の生活実態が浮かび上がってきました。

驚くべきことは、ほぼ 100%に近い出席率と週 5 日はほとんど大学に来ているという勤勉さです。医療系の大学が他の学部や文系の大学に比べると 1 年生の時から忙しいカリキュラムに追われていることが如実に表れているように思います。しかし、残念なことは、読書の時間が 30 分未満という学生が 70%もいることと、月間の講読書籍が 0-2 冊が 80%以上もいるという事実です。また、新聞を毎日読むという習慣を持っている学生は、わずか 10%程度です。確かに大学で学ぶ専門科目、専門基礎科目などに追われ、ゆっくりと小説やエッセイなどを読んでいる時間がないのも事実でしょうが、大学生の時代にこそ読めるような本があります。ぜひ、本を読む習慣と新聞に目を通す習慣を身につけていただきたいと思います。

親元を離れアパートなどで一人暮らしをしている学生は 26%います。この自宅外学生の食生活は必ずしも良いものではなく、朝食や昼食を抜く学生が自宅から通学している学生に比べて多くいます。朝食を食べている時間がないのかも知れませんが、大学でしっかりと学ぶには基礎的な体力が必要です。ぜひ、朝食をしっかりと食べて十分に頭を覚醒させて欲しいものです。

文責 学生委員会委員長 飯田英晴